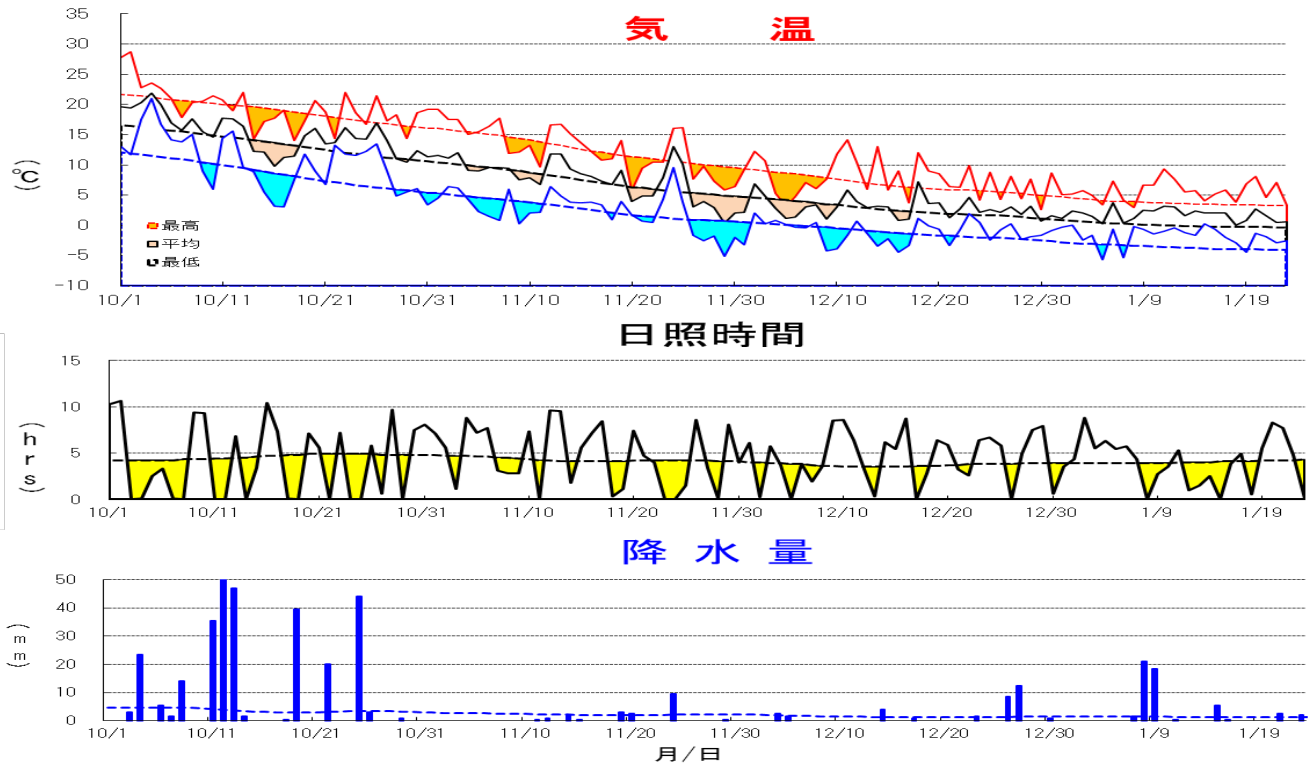


～台風の影響で播種遅れ生育量少，冬季温暖で確保するか？～

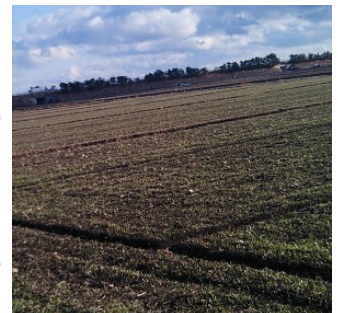
1 気象経過（10月～）



旬	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
10月	15.1	19.6	10.5	398.5	125.2
平年差	1.6	0.6	1.8	284.2	▲ 16.8
前年差	0.8	▲ 0.2	1.4	347.0	▲ 32.2
11月	7.8	12.7	2.5	19.5	138.7
平年差	0.3	0.0	▲ 0.2	▲ 48.4	9.9
前年差	▲ 0.3	▲ 1.5	0.0	▲ 13.0	▲ 3.1
12月	2.9	7.8	▲ 1.1	32.5	136.5
平年差	0.3	1.0	▲ 0.0	▲ 12.8	21.0
前年差	0.7	1.5	0.6	▲ 9.0	14.8

累積降雪量					
2019年11月1日 - 2020年1月23日					
地点	本年 (cm)	平年比 (%)	平年値 (cm)	過去1位/日 (cm)	同差 観測年
駒ノ湯	271	62	437	165	2018
川渡	30	15	205	116	2001
古川	12	13	91	92	2001
石巻	1	100	1	43	1923
新川	29	18	160	70	2014
仙台	3	12	25	41	1936
白石	6	15	39	57	2014

- ・10月の気温は，平年及び前年より高めに経過した。
- ・降水量は台風19号の影響等により，極めて多雨で日照時間も寡照となった。
- ・11月の気温も前月同様やや高め～並で，降水量は少雨でやや多照傾向であった。
- ・12月の気温は高め～並で，降水量は少雨で日照は多照となった。
- ・1月の気温は最高，最低とも依然として高めに経過している。
- ・古川，仙台とも累積降水量は，1月7日に降雪を記録したものの，例年に少ない。
- ・県内各地で積雪はほとんどなく，駒の湯を除き平年の10数%程度となっている。



2 生育状況：12月15日の生育状況（古試作況試験圃）

〔播種期：中旬区 10月17日 下旬区 10月30日〕

生育状況（草丈・茎数・葉数）（12月15日現在）

品種	区別	草丈			茎数			葉数			
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	
大麦	シュンライ	中甸区	9.8	66	86	598	64	104	4.2	-2.2	-0.1
		下甸区	5.9	72	-	230	51	-	2.6	-0.9	-
	ミノリムギ	中甸区	10.8	69	89	542	61	84	5.0	-1.1	0.6
		下甸区	7.0	80	-	227	52	-	2.4	-1.4	-
小麦	シラネコムギ	中甸区	10.8	70	82	375	46	65	5.1	-0.9	0.5
		下甸区	7.9	64	-	151	38	-	2.7	-1.0	-
	夏黄金	中甸区	9.8	77	-	327	55	-	5.2	-0.1	-
		下甸区	7.4	83	-	176	55	-	2.8	-0.8	-

- ・古試作況圃の出芽は概ね良好で、発芽までの日数も平年より短かった。
- ・12月15日現在の生育量は、平年並み～やや少なく、大麦は目標茎数を確保したが、小麦は少なかった。
- ・幼穂分化は、中甸区で大麦の幼穂長が0.6～0.9mm、小麦で0.1mmの平年並み、下甸区の大麦で0.3mm、小麦で0.1mmと前年並みであった。
- ・台風19号の影響により、県内各地の播種時期は遅れ、普及センターの生育調査圃でも、ほとんどが11月播種となっている。
- ・播種は遅れたが適度な水分があり、出芽は良好であるが、生育量は平年に比べて少ない。

3 今後の管理

(1) 排水対策

- ・明渠と基幹排水路の接続を再確認し、手直し作業をしておくことが重要である。
- ・融雪や降雨時の停滞水による土壌の過湿は、根ぐされ等の障害を受けるので注意する。
- ・暗渠が閉じていないか、再点検し確実な排水対策を実施する。



(2) 麦踏み

- ・土が湿っている時に麦踏みを行うと、土壌が固く締まり根の伸長阻害や排水性の悪化につながるため、圃場が乾いている時期をみながら実施する。
- ・本年は、現在ほとんど雪がなく、鳥害が予想され、葉の黄化や生育量不足が懸念される。
- ・麦踏みの時期と回数の目安は、3～4葉期に1回+越冬後茎立ち(大麦:3月上旬頃,小麦:3月下旬頃)までに2回実施するのが基本である。

【麦踏みの効果】

耐寒性,耐旱性の強化・霜柱による被害軽減・徒長,早立ちの防止・分げつの増加と相互の生育調整
 旱害による被害軽減・穂揃いの均一化・鳥害の軽減・深根化(→鳥害の軽減)・稈の強剛化
 風による土壌移動の軽減,防止

(3) 追肥（株直し追肥：2月上～中旬頃）

- ・葉色の回復、茎数の増加には株直し追肥が有効である。
- ・目標茎数の400本/m²以下や葉の黄化が著しい場合、窒素成分で1～2kg/10a程度施用する。
- ・大麦の追肥時期と施用量の目安は、2月上旬～中旬頃に葉の黄化が少ない場合、窒素成分1kg/10a，黄化が目立つ場合、窒素成分2kg/10a程度とする。
- ・11月以降に播種したほ場で生育量が少ない時は、同時期に窒素成分1kg/10a程度とする。

※時期は平年の場合のおおよその目安であり、実際には現地ほ場を良く確認して実施する。